メディア・マジック＝札幌市中央区

バス運行 遅れも瞬時に

道内外18社にシステム提供

スマートフォン向けシステム開発やコンテンツの企画制作を手掛けるIT企業。バスの現在位置など運行情報をスマートフォンでリアルタイムに確認できる主力のサービス「バスキタ！」は道内外のバス会社が採用。里見英樹社長(61)は「バス事業者の声や利用者の潜在的なニーズをつかみ、より使いやすいサービスを目指したい」と話す。

バスキタは衛星利用測位システム（GPS）で走行場所を把握し、遅延情報などをバス利用者の端末に表示する。冬場、雪による遅延や運休が多い道内では、乗客が屋外での待ち時間を減らす効果が期待できる。経路検索や、よく使う路線を登録する「マイバス」機能も無料で利用可能だ。

バスの位置情報を把握するサービスは以前からあったが、通信費やバスに設置する専用端末が高額なため導入が進まなかった。メディア・マジックは市販のタブレット端末を運転席に設置し、専用アプリを入れるだけで通信装置として使えるシステムを開発。バス事業者の導入・ランニングコストを従来の3分の1程度まで抑えた。

2014年にジェイ・アール北海道バスと共同で第1弾となる実証実験を札幌市内で実施すると、全国でも先進的な取り組みとして注目を集め、各地のバス事業者などから問い合わせが相次いだ。今ではジェイ・アール北海道バスやじょうてつ（ともに札幌市）、富士急バス（山梨県）など18社が採用する。

里見社長は1961年、芦別市生まれ。小樽商大大学院修了後、札幌市内のシステム開発会社などを経て、96年に同社を設立した。人気アニメ「エヴァンゲリオン」を使った従来型携帯電話（ガラケー）向けサイト制作やゲーム開発などで業績を伸ばし、スマホが登場するとアプリ開発などに乗り出した。「IT業界は挑戦する意欲があれば常にスタートラインに立てる。当社も挑戦を続けてきたからこそ今がある」と力を込める。

昨年末には、バスキタのジェイ・アール北海道バス向けのアプリで、運休証明書を発行できる機能も始めた。昨年2月の大雪を受けた対応で、ほかのバス会社からも引き合いがある。里見社長は「交通インフラの一端を担う責任は大きい。正確な情報を提供することに使命を感じている」と語る。今後は決済や目的地までの到着時間表示、デマンドバスのルート最適化機能などの追加を検討している。

（久保耕平）

「IT技術には、日常の困りごとや不便さを解消できる力がある」と語る里見社長

札幌市中央区北3西18。電話、011・621・2500。資本金7630万円。従業員40人。2022年3月期の売上高は4億円。ホームページはhttps://www.mediamagic.co.jp/

©北海道新聞社